

産衛だより

平成 25 年度事業報告

<公益目的事業>

- I 産業衛生に関する学術集会, 講演会, 研修会等を開催した.
- 第 86 回日本産業衛生学会
平成 25 年 5 月 14 日～18 日 (松山市, 四国地方会担当, 谷川 武企画運営委員長)
 - 第 23 回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会
平成 25 年 9 月 13 日・26～28 日 (名古屋市, 東海地方会・産業医部会・産業看護部会・産業歯科保健部会担当, 斉藤政彦企画運営委員長)
 - 第 22 回産業衛生技術部会大会 (産業衛生技術シンポジウム)
平成 25 年 9 月 27 日 (名古屋市, 産業衛生技術部会担当)
 - 9 地方会開催の学術集会, 研修会, 講演会等
 - 4 部会開催の学術集会, 研修会, 講演会等
- II 学会誌, 学術図書の刊行, 及び産業衛生に関する資料の収集, 編さんを行った.
- 学会誌 (編集委員会)
・和文誌:「産業衛生学雑誌」(第 55 巻:6 冊)
・英文誌:「Journal of Occupational Health」(Vol. 55:6 冊)
隔月発行し, 会員に配布するほか図書館等に寄贈した. また, 国際協力の一環としてアジアを中心とした海外の機関に無償配布した. 掲載の学術論文はホームページ等で公開した.
 - 視覚教材 (生涯教育委員会)
産業保健専門職の生涯教育の教材となる具体的な良好実践事例 (GPS: Good Practice Samples) を収集, 編さんし, ホームページ上で公開, 提供した.
- III 許容濃度等, 産業衛生に係わる各種基準等を勧告した.
- 許容濃度等の提案, 勧告 (許容濃度等に関する委員会)
化学物質の許容濃度, 高温・低温・騒音・振動等の物理的要因の許容基準等を提案する. 新規勧告値および勧告値の改訂を行った.
- IV 産業衛生専門職の研修教育を行い, 資格認定を行った.
- 学会認定専門医および専攻医 (専門医制度委員会)
専門医資格認定試験, 専攻医資格認定試験を実施した. 指導医及び専門医の更新, 専門医からの指導医認定を行った.
平成 25 年 2 月末現在の登録数: 指導医 347 名, 専門医 224 名, 専攻医 117 名, 研修登録医: 252 名 (専攻医含む)
 - 登録産業看護師
産業看護師の登録を行った. 平成 25 年 12 月末現在の登録数: 1,745 名
- V 7 常設委員会活動を行った. 1 非常設委員会を設けた.
- 編集委員会 (2) 許容濃度等に関する委員会 (3) 生涯教育委員会 (4) 政策法制度委員会 (5) 専門医制度委員会 (6) 倫理審査委員会 (7) 利益相反に関する委員会 (8) 産業保健看護専門制度準備委員会 (非常設)

- VI 9 地方会活動を行った.
各地方に根差した産業衛生に関する活動を行った. (地方会学会, 研修会, 研究会, 研究助成, シンポジウム等の開催, 機関誌発行による情報発信等)
(1) 北海道地方会 (2) 東北地方会 (3) 関東地方会
(4) 北陸甲信越地方会 (5) 東海地方会 (6) 近畿地方会
(7) 中国地方会 (8) 四国地方会 (9) 九州地方会
- VII 4 部会活動を行った.
(1) 産業医部会 (2) 産業看護部会 (3) 産業衛生技術部会 (4) 産業歯科保健部会
- VIII 32 研究会 (1 研究会を新設) 活動を行った.
(1) 産業疲労研究会 (2) 振動障害研究会 (3) 職業性呼吸器疾患研究会 (4) 中小企業安全衛生研究会 (5) 産業中毒・生物学的モニタリング研究会 (6) 産業精神衛生研究会 (7) 放射線原子力保健研究会 (8) 作業関連性運動器障害研究会 (9) アレルギー・免疫毒性研究会 (10) 労働衛生史研究会 (11) VDT 作業研究会 (12) 健康教育・ヘルスプロモーション研究会 (13) アルコール問題研究会 (14) 職域身体活動研究会 (15) 産業神経・行動研究会 (16) 温熱環境研究会 (17) 労働衛生国際協力研究会 (18) 就労女性健康研究会 (19) 産業疫学研究会 (20) 産業保健情報・政策研究会 (21) 産業保健マーケティング研究会 (22) 職域における睡眠呼吸障害研究会 (23) 職域における喫煙対策研究会 (24) 医療従事者のための産業保健研究会 (25) 産業栄養研究会 (26) エイジマネジメント研究会 (27) 産業心理技術研究会 (28) 非正規雇用研究会 (29) 騒音障害防止研究会 (30) 交通における安全と産業衛生の研究会 (31) 大学・研究機関における安全衛生管理研究会 (32) 職域救急研究会
- IX 国際学会開催準備を行った.
アジア産業保健学会 (ACOH) 2014 年大会の開催に向けての準備を行った.
- X 協賛・後援など.
13 の学協会の開催について, 協賛・後援した. (協賛 7 件, 後援 6 件)

<法人運営事業>

- 平成 24 年度学会賞 1 名, 奨励賞 2 名, 功労賞 2 名に授与し, 名誉会員 2 名を推薦した.

第 86 回日本産業衛生学会

(企画運営委員長: 谷川 武)

第 86 回日本産業衛生学会ならびに特別研修会は四国地方会が担当し, 平成 25 年 5 月 14 日から 17 日 (18 日は特別研修会) にかけて, 愛媛県松山市にあるひめぎんホール (懇親会は松山全日空ホテル) において開催した. これまで企画運営委員長を務められた歴代の先生方よりも若輩であることから, 若さと産業保健への情熱を込めて, 本学会のメインテーマを『産業保健における可能性の追求』とした.

特別講演 2 題, 教育講演 5 題, メインシンポジウム, シンポジウム 14 題等に加え, 「学部学生による発表」「論文書き方講座」といった本学会独自の企画, また 2 つの委員会並びに各部署のフォーラム等多くの企画を開催した。また, 本学会では, 利益相反の開示を行った。事務局判断で, 本学会では特別プログラム (特別講演 2 題, 教育講演 5 題, メインシンポジウム, シンポジウム 14 題) のみその対象とした。実施状況であるが, 一部の演題については開示されていないものもあった。ただし, 学会前事前通知は行ったものの, 学会期間中, 例えばスライド映写確認時に, 事務局員による確認等は行っていない。今後, 本学会での取り組みを基に, 周知方法や判定基準, 公表の仕方等について, より良い仕組みをご検討いただきたい。

一般演題については, 前回同様, 原則ポスター発表として, 口演に適していると事前査読の上判断された 90 演題を口演発表とし, 口演発表を希望しない演題を含めた残り 421 演題をポスター発表とした。なお, 本学会では優秀ポスター賞を設定し, 8 演題を選出し, ポスターセッション時に座長より表彰した。

なお, 主だった企画を以下に示す。

特別講演

“Role of Sleep Medicine and Chronobiology for Optimizing Productivity, Safety and Health in the Workplace”

「社会の中の, 社会のための知識・技術-転換期における専門家・実務家の役割と責任」

教育講演

“The World Trade Center Health Program (WTCHP): A Response to the Health Risks and Long Term Follow-up Engendered by the Attacks on the World Trade Center (WTC) — Implication for health care for rescue and recovery workers of the Great East Japan Earthquake—”

“Obstructive Sleep Apnea in North American Commercial Drivers: Effects on Crash Risk; Screening Strategies; and Benefits of Driver Treatment”

「日本の産業保健の光と影—世界の社会医学の起源と発展史から」

「Happy People Live Longer —幸せな人は長生きする—」

「産業保健における可能性の追求」

学会栄誉賞受賞者講演

「人にふさわしく健康に働く技術と国際協力」

学会賞受賞者講演

「科学的根拠に基づく職場のメンタルヘルスの第一次予防対策に関する研究」

奨励賞受賞者講演

「産業衛生分野における化学物質の曝露モニタリング技術の開発」

「中小企業の産業保健向上を目指して」

メインシンポジウム: 「産業保健における可能性の追求—

「坂の上の雲」シンポジウム

シンポジウム

「エビデンスに基づく産業栄養の実現に向けて」

「遺伝子情報の産業保健への応用—健康管理に遺伝子情報は活用できるのか—」

「特定健診・特定保健指導: 産業保健と地域保健の連携 (市民公開)」

「大学・研究機関における研究活動と安全衛生管理のあり方」

「がんになっても, 働き続けるために」

「職場のメンタルヘルスのグランドデザインを考える (市民公開)」

「産業保健分野における健康会計—企業内の健康情報を活用した社会との対話—」

「産業衛生分野における新進気鋭の研究者の先進的・萌芽的な取り組みについて」

「胆管がん—新しい職業がんの発見」

「事業場内産業保健スタッフ等と他職種との協働を考える」

「職場のメンタルヘルスの第一次予防支援による健康推進」

「「これからの健康科学」—産業保健におけるエイジマネジメントストラテジー—」

「職場における睡眠問題」

「東京電力福島第一原発事故における原発従事者の労働安全と健康」

学部学生による発表

論文の書き方講座

地域交流集会「地域交流会 —労働者本位の産業衛生取組みの強化に向けて—」

本学会では, 学会運営のスリム化と, 時間をかけてできうる限り内容の濃い講演集の作成を目指し, 例年事前配布していた, ポケットプログラムと CD を配布せず, 当日参加者のみに講演集とポケットプログラムを配布した。学会ホームページには, 学会 1 週間前と遅くなったが, ポケットプログラムの内容を掲載した。

愛媛県は県外からとなると, 主な交通機関は空路と, 交通の便に不安があったが, 学会 4 日間の参加者数 2,429 名 (有料者のみ), 18 日の特別研修会 169 名, 懇親会は 443 名の方に来場いただき, 理事の先生方はじめ学会員の皆様, ご支援いただいた企業・団体の皆様, 企画運営委員として運営にご協力いただいた四国地方会代議員の皆様のおかげで, 無事盛会裏に終えることができたことを, 心より感謝申し上げます。

第 23 回日本産業衛生学会産業医・ 産業看護全国協議会

(企画運営委員長：斉藤政彦)

1. メインテーマ：連携，そして発展！産業保健の未来を問う。
2. 会期：平成 25 年 9 月 26 日～28 日
3. 会場：名古屋国際会議場（四部会合同セミナー愛知教育大学にて 9 月 13 日）
4. 実地研修：トヨタ自動車，JR 東海，新日鉄住金，日本ガイシ，アサヒビール
5. 主なプログラム
 - ・教育講演：①職場における有害物質による健康障害の防止
②職場のポジティブメンタルヘルス。
 - ・シンポジウム：①発達障害の特徴と職場での適切な接し方
②高齢化と産業保健
③メンタルヘルスとデンタルヘルス
④パーソナリティ障害
⑤ガンを抱えながらの就労を考える。
 - ・その他：連携事例アラカルト，事例検討，リレーワークショップ
 - ・メイン企画（大討論会）：産業保健の未来，3つの課題を問う。
6. ポスター演題：53 題

開催所感

四部会合同セミナーは受け入れ職場の都合で異例の飛び石開催となり，心配されたが，地元の参加者を中心に 26 日の発表会も含め，成果のあるセミナーとなった（参加者 29 名）。また第 22 回産業衛生技術部会大会を合同開催した。合同開催が定着しつつある。さらに発展して 4 つの部会が共催することが望まれる。協議会本体の参加者数が 1,032 名，懇親会参加者 178 名と盛会であった。予想以上の参加者に抄録集が足りなくなるというハプニングもあったが，天気にも恵まれ，大きなトラブルなく終了できた。

第 22 回産業衛生技術部会大会

(企画運営委員長：村田 克)

「化学物質管理」をテーマに，第 22 回産業衛生技術部会大会を以下の通り開催した。参加は 48 名であった。

日時：平成 25 年 9 月 27 日（金）14：00～17：00

場所：名古屋国際会議場 231 会議室

座長：中元健吾（日本ガイシ）

講演：

1. 「化学物質管理に関する行政の動向」名古屋俊士（早大）
2. 「リスク管理にもとづく化学物質管理」
武田繁夫（武田労働衛生コンサルタント事務所）
3. 「事業場における化学物質管理の実際」
片岡直也（豊田自動織機）

また同時期に，以下の行事を開催した。

- ・第 17 回産業衛生技術専門研修会（フィットテスト研究会との共同開催）

テーマ：「産業現場における呼吸用保護具」

日時：平成 25 年 9 月 26 日（木）18：00～20：00

場所：名古屋国際会議場 436 会議室

プログラム：

講演 1. 「産業現場における呼吸用保護具」

田中 茂（十文字学園女子大）

2. 「産業現場における呼吸用保護具使用の実際」

中原浩彦（EMG マーケティング）

実習 各種呼吸用保護具の着用およびフィットテスト

（フィットテスト研究会）

参加：25 名（定員）

- ・平成 25 年度第 3 回産業衛生技術部会企画運営委員会

日時：平成 25 年 9 月 26 日（木）15：30～17：30

場所：名古屋国際会議場 435 会議室

- ・平成 25 年度第 2 回産業衛生技術部会幹事会

日時：平成 25 年 9 月 27 日（金）13：00～14：00

場所：名古屋国際会議場 231 会議室